

# するが文化の散歩道 スタンプラリー

## ⚠️ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためお願い

- ・ご来場の際はマスクを着用し、こまめな手洗い、アルコールによる手指の消毒にご協力ください。
- ・下記に当てはまる場合は、ご来場を控えていただきますようお願いいたします。
  - 体調がすぐれない場合（発熱・咳・咽頭痛・味覚障害等の症状がある方）
  - 家庭や職場、学校など身近に新型コロナウイルス感染症の感染者もしくは感染の可能性のある方がいらっしゃる方

### 施設紹介



#### 中勤助文学記念館

中勤助文学記念館は、中勤助が昭和 18（1943）年に東京から転地静養と疎開のために移り住んだ旧前田邸を「中勤助文学」の記念碑として位置づけ活用するため、中勤助の生誕 110 年目（没後 30 年目）にあたる平成 7（1995）年に「中勤助文学記念館」として開館しました。中勤助直筆の原稿、書籍、遺品を展示しながら、貸室（無料）も実施。中勤助顕彰の場、文化交流の場として、広く親しまれています。

- 時 10:00～17:00
- 休 月曜日（祝日の場合は翌日）  
祝日の翌日（土・日の場合を除く）  
年末年始（12月26日～1月5日）



- 入 無料
- 住 静岡市葵区新聞 1089-120
- しずてつジャストライン 薬科線（約 25 分）  
JR 静岡駅北口 3 番線または、静岡鉄道新静岡駅 2 番線から、「見性寺入口」下車、徒歩 4 分。



#### 藤枝市郷土博物館・文学館

藤枝市文学館は、藤枝ゆかりの文学者・芸術家や文学作品・芸術作品に関する資料を収集・展示し情報発信するために平成 19（2007）年に開館しました。建物は藤枝市民の憩いの場である蓮華寺池公園内にあり、郷土博物館とも接続しています。藤枝で執筆活動を終生続けた作家・小川国夫が日常の散歩道としてこよなく愛した蓮華寺池公園の自然の中で、藤枝の文学や郷土の歴史・文化を学ぶことができます。

- 時 9:00～17:00
- 休 月曜日、祝日の翌日、年末年始
- 入 高校生以上 200 円  
（特別展入館料は別途）、中学生以下無料



- 住 藤枝市若王子 500
- しずてつジャストライン（約 10 分）  
JR 藤枝駅北口 2 番のりばから新静岡方面行乗車、「蓮華寺池公園入口」下車 徒歩 10 分。



#### しずぶんツアーとは？

しずぶん 静岡にゆかりの文化人ならびに静岡の文化をみなさんに知ってもらい、その魅力を紹介するツアー。静岡の文化に親しみ、新たな静岡の魅力を見つけられるきっかけとなれば幸いです。

# するが文化の散歩道 スタンプラリー



撮影：相田昭



**静** 岡県中部は、日本近代史に名を残した文化人にゆかりがある地域です。静岡市、焼津市、藤枝市にある各館を巡るスタンプラリーを通して、彼らの作品やそれらを育んだ風土を体感し、静岡の魅力を再発見してみませんか。

**期間** 令和 2 年 12 月 9 日 水 ～ 令和 3 年 3 月 14 日 日

**会場** 中勤助文学記念館  
静岡市立芹沢銈介美術館 \*要入館料  
焼津小泉八雲記念館  
藤枝市郷土博物館・文学館 \*要入館料

スタンプはこちらへ

**期間中**  
集めたスタンプ数に応じて

ノベルティ  
プレゼント



[2つのスタンプを集めた方]  
しずぶんツアーロゴ缶バッジ

[4つのすべてのスタンプを集めた方]  
オリジナルバッグ

[Wチャンス]  
4つのスタンプを集めた方の中から抽選で30名様に各館オリジナルグッズの詰め合わせもプレゼント♪

\*ノベルティは数に限りがございます。なくなり次第終了とさせていただきます。  
\*缶バッジ、オリジナルバッグは各館で引き換えができます。(令和3年3月14日まで)  
\*各館の回り方は自由です。



# するが文化の散歩道スタンプラリー

彼らが生きた明治、大正、昭和の時代に思いをはせながら、静岡の魅力を再発見。

なか かんすけ  
中 勘助

1885 (明治 18) 年—1965 (昭和 40) 年



自身の子どもの頃を綴った『銀の匙』で有名な中勘助は日本の近代文学を代表する作家です。岐阜の今尾藩士だった中家の五男として東京で生まれ育ち、第一高等学校、東京帝国大学で夏目漱石に学びます。1943 (昭和 18) 年 10 月から 1948 (昭和 23) 年 4 月までの約 4 年半、転地静養のために東京を離れて夫妻で静岡市郊外 (旧安倍郡服織村新聞) に移住しました。帰京後の 1957 (昭和 32) 年には静岡市立服織中学校の校歌を作詞するなど、静岡との縁は永く続いています。

代表作

銀の匙 1926 (大正 15) 年 岩波書店  
東京朝日新聞に連載された中勘助の自伝的小説。装丁意匠は中勘助が原案を考え、兄嫁の末子が下絵を描いた。



クイズ

記念館の展示室には「銀の匙」の実物が展示されています！これは何に使うための匙？大きさはどれくらい？

中勘助文学記念館の見どころ

「杓子庵」の畳にはへりが無い！

ごろっと寝転びタイムスリップ！「杓子庵」の窓から、中さんの見た風景を見てみよう。

こいずみ やくも  
小泉 八雲

1850 (嘉永 3) 年—1904 (明治 37) 年



『怪談』の作者としても知られる小泉八雲 (ラフカディオ・ハーン) はギリシャに生まれ、渡米を経て、明治時代に来日。晩年、避暑地としてたびたび焼津の地を訪れ、家族とともに海水浴を楽しみました。八雲は焼津の海と人情を愛し、この地を舞台とした随筆「焼津にて」「乙吉のだるま」などの作品を書いています。八雲の幽霊譚「漂流」もこの地で聞いた話をもとに書かれた作品で、記念館には作品に出てくる「板子」の実物も展示されています。焼津市内には八雲文学散歩コースも整備され、記念碑や作品ゆかりの地を巡ることができます。

代表作

Kwaidan『怪談』 1904 (明治 37) 年  
「耳なし芳一」や「雪おんな」など八雲の代表作といえる怪談が収録された晩年の傑作。日本の古い物語に八雲独自の西洋的思想が融合された幽玄の世界が繰り広げられる。



クイズ

八雲は避暑地の焼津からセツ夫人に多くの手紙を書きました。八雲は奥さんのことを手紙でなんと呼んでいたでしょう。「セツさん」……いやいや。

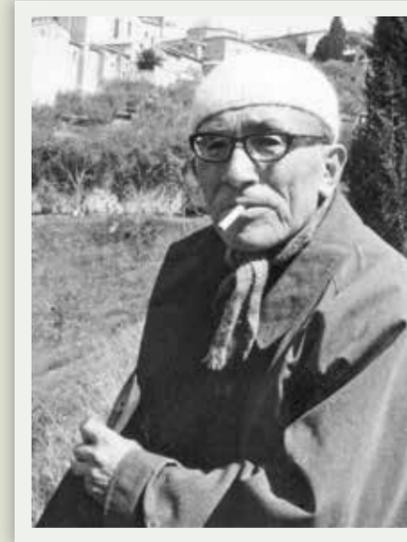
焼津小泉八雲記念館の見どころ

必見！甚助の命を救った「漂流」の板子

焼津から妻セツに宛てたカタカナの手紙を読んでほっこり

せりざわ けいすけ  
芹沢 銈介

1895 (明治 28) 年—1984 (昭和 59) 年



芹沢銈介は、1895 (明治 28) 年に静岡市葵区本通に生まれました。東京高等工業学校 (現・東京工業大学) 工業図案科卒業後、生涯の師である柳宗悦と、沖縄の染物・紅型に出会ったことを契機に、型染を中心とした染色の道を歩み始めます。芹沢には色彩と模様に対する天与の才能があり、従来の染色の枠組みにとらわれない、新鮮で創意あふれる作品を次々と制作しました。芹沢は非常に多作で、また染色にとどまらない幅広い仕事をしましたが、生涯を通じて明解かつ温和な作風を貫いており、多くの人々に愛好されました。

代表作

「伸びゆく静岡」 1969 (昭和 44) 年  
旧静岡市の市制 80 周年を記念して制作された作品。富士山を中心に安倍川、駿河湾など静岡のモチーフが盛り込まれている。



クイズ

芹沢銈介美術館は石や木、水といった天然素材で構成されています。そんな芹沢銈介美術館の別名を何と言う？

静岡市立芹沢銈介美術館の見どころ

芹沢銈介美術館は、本館の建物自体が美術品。

展示室ごとに異なる「天井」にもご注目！日曜日と祝日には、「芹沢銈介の家」が公開されています。

おがわ くにお  
小川 国夫

1927 (昭和 2) 年—2008 (平成 20) 年



撮影：相田昭

藤枝生まれ藤枝育ちの小川国夫は、自らを「枝っ子」と称する郷土愛の持ち主でした。若き日にフランスに留学し、地中海沿岸をバイクで旅をした体験をもとに、代表作『アポロンの島』を執筆し作家として注目を浴びることになりました。小川国夫の小説は、聖書と欧州体験を題材とした作品をのぞき、そのほとんどが藤枝、焼津、大井川河口域など、郷土である駿河湾西岸を舞台としています。文学館は、小川の散歩コースでもあった蓮華寺池のほとりに建ち、作品に登場する藪田富士などを見ることができます。

代表作

アポロンの島  
1957 (昭和 32) 年 青銅時代社  
地中海の溢れる光の中で、ひとり単車で旅する青年が出会う人々や風景を描いた、青春の書というべき一冊。



クイズ

小川国夫が 20 歳のときに初めて書いた小説は、「銀河」という小品集をもとにしています。さて、誰の作品でしょうか。

藤枝市郷土博物館・文学館の見どころ

圧巻！小川国夫の「書齋」を復元。

小川国夫の他にも、藤枝静男、加藤まさを、村越化石ゆかりの品もご覧いただけます。



クイズの答えは各館で探してみてください。